

# お風呂は介護老人保健施設の最重要設備 エコキュートの増設に利用者も大満足

**「はぐれい」**は、仙台市南部、若林区今泉に1995年に建設されたオール電化の介護老人保健施設です。竣工時の給湯設備は16tの容量をもつ電気温水器でした。

「はぐれい」は、仙台市内に仙台整形外科病院を経営する医療法人社団白嶺会の運営で、1、2階合わせて100人の利用者がリハビリなどを行いながら居宅復帰を目指して生活しています。入所者の平均年齢は80歳を超え、身体が不自由な方や、認知症(痴呆)の方もいます。利用者を、一年中休みなしで介護しているのは医師、看護師、介護職員、理学療法士、作業療法士、栄養士など56人。

## 利用者はお風呂好き

「開所当時は入所サービスだけでしたが、現在は平日約20人の通所リハビリサービスを行っています。朝9時頃までに送迎車で迎えにうかがい、夕方4時頃まで過ごしていただくわけです。こうした通所サービスを利用されている方を



小斎氏



お風呂の前に行列ができていた



通所サービスを終えて帰宅

含めて、利用者の楽しみは、なんといつても入浴です」と語るのは、「はぐれい」管理係長の小斎昌志氏。利用者の多くは、介助がないと入浴できない方たちです。いつでも好きな時に、お風呂に入るわけにはいかないこともあって、設備が整い看護師や介護職員がいる施設での「お風呂」は大きな楽しみになります。

しかし、通所リハビリサービスをスタートさせて、利用者にもつとゆつくり入浴していただくなど、

サービスの向上を実現するためには、既存の電気温水器だけではお湯の量が不足気味になってきました。

## コスト、環境重視の選択

「給湯設備を増設することになったのですが、ランニングコストでメリットがあるだけでなく、環境にやさしい業務用エコキュートを選びました」(小斎氏)

2004年7月、3000㎡の貯湯槽を備えたエコキュート2基が導入されました。自然冷媒(CO<sub>2</sub>)を利用したエコキュートは、夜間電力を利用して90℃程度のお湯を蓄え、入浴施設に供給しています。

小斎氏は、「エコキュートの増設によりお湯の量も十分確保でき大変満足しています。驚いたことに、設備が増えたのに電気料金はほとんど変化がありません」と語っています。ふんだんにお湯が使えるようになった浴室の前には、車椅子の行列ができていました。高齢化が進むなか、業務用エコキュートに適した施設はますます増えていくに違いありません。



順調に移働するエコキュート



陽当り抜群の談話室